

創世記

第四十一章から第五十一章

ヤコブの祝福

41章	57節	ファラオの夢を解く	ヨセフの支配
42章	38節	兄たちエジプトへ下る	
43章	34節	再びエジプトへ	
44章	34節	銀の杯 ユダの嘆願	
45章	28節	ヨセフ身を明かす	
46章	34節	ヤコブのエジプト下り	ゴシェンでの再会
47章	29節	ファラオとの会見	ヨセフの政策・ヤコブの遺言
48章	22節	ヤコブ ヨセフの子らを祝福する	
49章	33節	ヤコブの祝福	ヤコブの死
50章	26節	ヤコブの埋葬	赦しの再確認



ファラオの夢を解く

第四十一章 早アテオの夢を解く

二年の後にアテオは夢を見たナイル川のほとりに
立っているとき、突然つややかなよく肥えた七頭の

雌牛が川から上がって来て葦垣で草を食べ始めた
とき、今度は醜いやせ細った七頭の雌牛が川から

上って上って来て岸边にいる雌牛のそばに立った

そして醜いやせ細った雌牛がつややかなよく肥えた

七頭の雌牛を食い尽したアテオはそこで目が覚めた

アラオがまた眠ると再び夢を見た今度は太つて
よく実った七つの穂が一本の茎から出て来た。すると
その後から実が入って、いなぎ東風で干からびた七つの
穂が芥子を生えてきて、実の入らない穂が太つて
実の入った七つの穂もものみ込んで、もうたアラオはそい
で目が覚めたそれは夢であつた。朝になつてアラオ

はひどく心が騒ぎ、エジプト中の魔術師と賢者も

すべて呼び集めさせ、自分の見た夢を彼らに話した

しかしマラオに辭き明がなすことが出来ぬ者はいなうた
そのとき例の給仕役の長がマラオに申し出たわたくし
は今日にならうて自分の過ちを思ひ出さうた。かうて
マラオが僕とせいで憤られて待従長の家にある
牢獄にわたると料理長を入れられたとき。同じ夜に
わたしたちはそれぞれの夢を見たのですが、そのうち
らにも喜び味が隠されてしまふ。そこには待従長
に仕えていたヘブライ人の若者がおりまして、彼に話を

したところわたしたちの夢を解き明かしてそれぞれ
その夢に気づいて解き明かしたのです。そしてまぎし
く解き明かしたとおりになつてわたしは元の職務に
復帰することを許され彼は木にかけられ死した」
そこでファラオはヨセフを呼びにやつたヨセフは直ちに

牢屋から連れ出され散髪をとり着物を着替へてから
ファラオの前に出た。ファラオはヨセフに言った「わたしは
夢を見たのだがそれを解き明かす者がいない。聞くと

いよれば「お前は夢の話を聞いそ解き明かす
ことが出来るさうだが」⁽⁶⁾ ヨセフはファラオに答えた

「わたしではありません 神がファラオの幸いにツツて
告げられるのです」⁽⁷⁾ ファラオはヨセフに話した夢の
中で「わたしがナイルの川の岸に立子いると、突然
よく肥えてつややかな七頭の雌牛が上り来りて草辺

で草をも食入始めた。するとその後から今度には
貧弱でとても醜いやせた七頭の雌牛が上り来た

あのほじむどいのはエジプトでは見たことがない

そのうちそのやせた醜い雌牛が初めのまぐ肥えた七頭の
雌牛を食い尽してしまつた。ところが確かに腹の
中に入れたのに腹の中に入れたことがまるで分から
ないほど最初と同じように醜いまぐなのだから

そこで目が覚めた。それからまた夢の中でわたし
は見たのだが今度はとてつとて実の入つたせうの穂が

一本の茎から出てきた。そしてその後からやせ細く実

が入るおらず東風で干からびたセツの穂がよぐ
実つたセツの穂をのみ込んでしまつたわたりは魔術師
たちに話したがその意味を告げる者は一人もいなかった
ヨセフはアラオに言つたアラオの夢はどちらも同じ
意味でございませう神がこれからなせうとしている

ことをアラオにお告げになつたのです。七頭のよぐ音
つた畑は七年のことでセツのよぐ実つた穂も七年
のことでおちのよぐの夢の同じ意味でございませう。その

後から上つて来た七頭のやせた醜い雌牛と七年のこと
です。またやせて東風で干からびた七つの穂も田で
これは七年の飢饉のことです。これは先ほどエジプトに
申し上げましたように神がこれからなされることと
ことをエジプトにお示しになりました。今から七年間
エジプトの国全体に大豊作が訪れます。しかしその後
七年間飢饉が続きエジプトの国が豊作があつたこと
などすっかり忘れられてしまふ。こういふよう飢饉が国を滅

ぼーとしてしまうのですね。この国に豊作があったらとは
その後、続く飢饉のために金くさいれられてしまう
てしまう。飢饉がはそれほどひどいのです。アヲオが夢
を二度も重ねて見られたのは神がこのことを既に
決定しておられ、神が間もなく実行されることであら
れらるるのです。このような次第ですからアヲオは
今すぐ聡明で知恵のある人物をお見つけにならうと

アヲオの国を治めたいわ。また国中に監督官をお立て

にせよ、豊作の年々の間、エジプトの國の產物の五分の
一を徵集するに過ぎない。この徴集は、エジプトの國の
訪れる豊作の年々の間に食糧を蓄積する限り、集めさせ
町の食糧となる穀物を、その年の管理の下に蓄積保管
させるのである。そうすれば、その食糧がエジプトの國を襲う
七年の飢饉に対する國の備蓄となり、飢饉に對して
國が減じることはない。』

エジプトの支配

アラオと家来たちは皆ミサンの言葉に感心した。アラオは家来たちに向かって「神の書が宿せる人はほかにあらざらん」といふ。ミサンの水を回すやうにアラオは「神がそなたの心におぼしめさるるに、お前ほど聡明で知識のある者はほかにほかにいざいであらう。ただ王位にあると、うごきただけお前はお前の上になつて、アラオはミサンの言つて「見よ、お前は今お前をエジプトの全国の上になつて」といふ。即ち神の言はた指輪を自分の指に

いびきかへしてエジプトの禁にはめ、異麻布の衣服を着せ、金の首飾りもエジプトの首にかけた。ヨセフを王の弟の車に乗せると、入るはエジプトの前で、アブレイラ敷礼と叫んだ。アブレイラは「いびきかへしてエジプトのEジプト全国の上」に立て、ヨセフに「エジプト

「お前はエジプトにあら、お金の禁」に立て、エジプト全国でだれも手戻はよび、お金の禁にはならぬ。エジプトは、お金の禁にエジプトにツアスナト、パネアという名をきえ、オシの祭司

ボラ、エラの娘アセナトを妻として与えた。ヨセフの威光は、こうしてエジプトの国にあらわく及んだ。

ヨセフはエジプトの王ファラオの前に立ったとき三十歳であつたヨセフはファラオの命をたがうてエジプト全国を巡回した。製作のセネブの地は豊かにな実りに満ち溢れた。

ヨセフはその七年の間にエジプトの国中の食糧を貯蓄して置く。限つて集めてその食糧を貯蓄し蓄えさせた。その周囲の畑に貯蓄した食糧をその間に蓄えさせたのである。ヨセフは海沿いの砂ほどかまぐの穀物も蓄えして、豊かになれなくなつた。Chapman's copy によつた。

飢饉の年がやってくる前にヨセフに二人の息子が
が生まれてきた。この子供を産んだのはオシの祭司ボネ
ズルの娘アサナトである。ヨセフは長男をマナセ(忘
と名付けと言った。神がわたしの苦しみと父のさぶらばと
をよぶて忘れさせてください。また次男をエラタイム
増やす)と名付けと言った。神は悩みの地でわたしの
子孫を増やしてください。エジプトの国に七年間の大
豊作が終るとヨセフが言った。七年の飢饉が
始まった。

その飢饉はすべての国を襲ったがエジプトには金
どこにいても食糧があった。やがてエジプト全国にも飢饉が
広がり民がフラオに食物を叫び求めた。フラオはすべての
エジプト人に「ヨセフのもとに行きヨセフのまうとおりにせよ」と命じた。飢饉は世界各地に及んだ。ヨセフはすべての穀倉を囲ってエジプト人に穀物を売ったがエジプトの飢饉は激しくなっていた。また世界各地の人々も穀物を買った。エジプトのヨセフのもとにやがて来るようになった世界各地の飢饉も激しくなってきたからである。

第四十二章 兄たちエジプトへ下る

ヤコブはエジプトに穀物があると知って息の子たち
にどうしてお前たちは顔を見合わせているのだ
と問い更に①「聞くところではエジプトには穀物が
あるというだけだがエジプトへ下って行って穀物を
買ってきてきなさい。そうすれば我々は死なずに生き延
びることができるとはなにか」と言った②そこでヨセフの
十人の兄たちはエジプトから穀物を四具うだめへ下って
いった

ヤコブは弟ズニヤミンを兄弟たちに同行させなかつた
何か不幸なことが彼の身に起るまいかと思つた
からであつた。イスラエルの息子たちは他の人々に
混じつて穀物を買ひに出かけた。カナン地方にも飢饉
甚つていたからである。ところでヨセフはエジプトの司政者
として国民に穀物を販売する監督をしていた。ヨセフの
兄たちは来て地面にひれ伏しヨセフを拜した。ヨセフ
は「見て兄たちだ」と気づいたが、さうらぬ振りをして、
「厳し

口調で「お前たちはどこからやって来たのか」と問かけた
彼らは答えた「食糧を買い求めにカナン地方からやって
参りました」ヨセフは兄たちだと気づいていたが見たちは
ヨセフとは気づかなかったヨセフはそのときかかって見たちに
ついで見た夢を思い起したヨセフは彼らに言った
「お前たちは何者だこの国の平澤な所を揺るに來
たいちがいなさい」彼らは答えた「いえご主人様
僕どもは食糧を買いに來ただけでございます」わたし

どもは皆ある男の息子で正直な人間でござります。僕どもは決して回し者などではあらずせん。」

ヨセフが「やお前たちはこの国の王に導かれ所を採りに来たにちがいない」と言ふと、彼らは答えた。「僕ども

は本をに十三人兄弟でカナン地方に住むある男の息子たちでござります。末の弟は今又の世におりませぬが、

一人は矢いまた「すなわちヨセフは言った。お前たち

が回し者だとおなごせられたのは、その事だ。」「

ついでにお前たちを試すことにする。ファラオの
命にかけて、ヨコウいちばん末の弟をバビロンに連れて来させよ。
それまでにはお前たちをバビロンから出すわけにはいかぬ。
お前たちのうちだれか一人を行かせて弟を連れて
こい。それまでにはお前たちを監禁し、お前たちの言う
ことが本當かどうか試す。もしその通りでなかつたら
ファラオの命にかけて言う。お前たちは尚違はなく甲
者だ。ヨセフはこうして彼らを三月間牢獄に監禁して
おいた。

三日目にござうてヨセフは彼らに言つた。さうすれば
お前たちの命を助けてやろう。わたしは神を畏れる
者だ。お前たちが本心に正直な人間だ。さうのなら
兄弟のうち一人だけを牢獄に監禁するから、ほかの者
は皆飢えてゐるお前たちの家族のために穀物を持って
帰る。未の弟をこゝに連れて来い。さうして、お前たち
の言ひ分が確められたら、殺されはしな。彼らは同意
して、互に言つた。ああ、我々は弟のことで罰を

受けているのだ。弟が我々に助けを求めたとき、あゝほと
の苦しみを見ながら耳を貸そうともしなかった。

それでこの苦しみが我々にふりかかった。『さるゝ』
答えた。「あのときわたしは『あの子に悪い』
と言った。ただ、はなはだお前たちは耳を貸そうともしな
かった。だからあの子の血の報いを受けろのだ。』
彼らは

ヨセフが聞いていた。知らなかつた。ヨセフと兄弟たち

の間に通訳がいた。だからである。ヨセフは彼らから『
』

ほいたそれからまた戻つて来て話もしたうえで
シヤンも運び出し彼らの見ている前で縛り上げたヨヤフは
人々に命じて兄たちの袋に穀物を詰め支払った銀を
めいめいの袋に返して道中の食糧をとるよろしに指示し
そのとおりに実行された。彼らは穀物をもろばに積んで
そこの立ち去った。途中の宿で一人がろばに餌をやるの
とて自分の袋を開けてみると袋の口から銀が
あふれを見つけた。ほかの兄弟たちにもあった戻されて

いさぎわたりの銀がほらわたりの、然夜の中に「みんなの
者は驚き互いに震えながら言った。これは一体どう
いうことだ。神が我々になされたことは」「一行はカナン
地方にいる父カヨブのところへ帰って来て、自分たちの
身に起つたことをすべて報告した。あの国のま君が
あゝ人が我々を蔑し、口調で侮辱して、あの国を握る
に来た回し者にちがいな」と言つたのです。もちろん
我々は正直な人柄が決して回し者などではなうと合え
ました

我が十一人兄弟で一人の父の息子であらう一人は天
まーだが末の弟は今カナン地方に住まふ父のもとに
いましてと言つたところ。あの国の主君であらう人が
まーだではお前たちが木をいかに植へたか
を聞いて確かめることにする。お前たち兄弟の
うち一人だけここに残り飢えていらお前たち兄弟
の家のために穀物を持ち帰るか。いい。ただし末の
弟を必ず（）連れて来るのだ。そうすればお前

が回者ではななく正直な人向であることが分るから
お前たち兄弟を返し自由にこの国にお入り下さい
ようにしてせうじ。それから彼らが袋を開けてみま
めいめの袋の中にもそれぞれ自分の銀の包みが入った
彼らの父も銀の包みを見て恐ろしくなつた。父ヤコブ
は息子たちと言つた。「お前たちはあたーから次々と
子供を奪つていきましたヨセフを失ひシメオンも失つた
その子(ヤコブ)も取上げてゐるのかみんなあたーを

「キーラーさんとは何のだった。ズビンは父にまいった。キーラー

お父さんとこちらにズビヤミンを連れ帰らなうべよ。うが

あれはあだーの二人の目撃者を殺してか、ロバートさん

どうか彼もあだーに任せしてください。あだーが必ずお父

さんのとこちらに連れ帰らま。からーガーヤングは言った

「やいの子だけはお前たちと一諸に行かせら。わけにはい

この子の兄は死んでしま。残りいるのはこの子だけではないが

お前たちの旅の途中で何か不幸なことがこの子の身に起

こらでもしたらお前たちはこの白髪の父を悲嘆のうち

警府に下りさせるとい。た。ものだが

第四十三章 再びエジプトへ

この地方の飢饉はひどく、なほ一方であつた。エジプトから持ち帰つた穀物を食べ尽くすと父は息子たちに言つた。「もう一度行つて我々の食糧を少し買つて来なさい。」しかしエダは答へた。「あの人は、弟が一諸でない限りわたしの顔を見ることが許さぬ」と厳しく我々に言い渡したので、もう弟を一諸に行かせてくださるなら我々は下つて行つてあなたのために食糧を買つて参ります。」しかし一諸に行かせてくださる

なのだから行くわけにはいきません。日弟が一諸でない
かぎりあたしの顔を見ることが許さぬ」とあの人が
我々に言ったのですから。なぜお前たちはその人に
もう一人弟がいるのだと言つてあたしを苦しめられた
ことを——たのがことイスラエルが言うところ、彼らは答へた
あの人が我々のことや家族のことについてそのお前たちの
父親はまた生きているのか、とか、お前たちにはまだ
ほかにも弟がいるのか、などと言ひまじりに尋ねられるので
から尋ねられるまことに答へただけです。でも、

『若も連れて来てい』などと云われようとは思いませんが、等々うま喜んでしたから、ユダは父イサラエルに言った、
『あのふとを連れてあなたと一緒に諸に行かせてください。それ
ならすぐいざとも行そと参りませう。そりすれば我も
あなたも子供たちも死なずに生き延びるゝことが
できます。』
あの子とはあなたに保障しませう

その責任をあなたに負わせてください。もしも
あの子をおとさんのもとに連れ帰らざらば、無事なが
染をお目にかけてられぬようなことにでなければ、あなた

あなたに対して生涯その罪を負い続けまます。こんな
ならためらうていなければ、今ごろはもう二者も行って
来たはずですよ。そして父イステラ元は息子たちになら
言わなうて、もしそうしなければならぬのなら
こうしなさい。この土地の名産の品を袋に入れてその
人の贈り物として持つていくのだ。乳香と蜜をブー
樹脂と没薬、ピスタチオやアーモンドの実。それから銀も
二倍用意して行きなさい。袋の口に戻されて、いた銀も
持つていくてお返しするのだ。だが、なん何の向違はないだ。

のだからからいでは弟を連れて早速その人のところへ
戻りなさい。どうか全能の神がその人の前でお祈り
たちを憐みを施しもう一人の兄弟とこのズルバニヤンとを返し
てくださいますように。このおたがどういふことも子供を
失おねばならぬのなら失つてもよい。『自己の子たちは
贈り物と二倍の銀を用意する』(ミヤニヤン)を連れ
て早速エジプトへ下って行った。ヤセ一行がMPCANの牧場
道へ出る時、ミセフはズルバニヤンが答を先へ自今
宗を任せている執事に言った。「めい人たちはおたが連れ

れしたまは、いそがから、おが言を屠つて料理を調えなうい
及、今、食事を、この人たちとすまふから、執事はヨセフの

言われたとおりに、一団をヨセフの屋敷へ連れて行った
一団はヨセフの屋敷に連れて来られたので、恐ろしく
なうて、このおは、まゝと前に来たとき、我々に戻され、いた

銀のせいだ、それにて、ここに連れ込まれようとしているのだ
今にしろは、もろとも捕えられ、ひどい目に遭い、奴隷にされ

て、まうに、ちがいな、と、思った、彼らは、屋敷の入口の
ところで、ヨセフの執事の前に進み出て、話かけて、言った、

「ああ御主人様実はわたしどもは前に一度食糧を
買収したためにハンに来たハンとガバングラス
ハンに宿で袋を開けてみると一人一人の袋にDS
とハンにそれぞれ銀が入っておりました。銀の
重さは元のままでした。それでそれをお返しなけれ
ばと持つて参りました。もちろん食糧を買った分の
銀は別に用意しておりませう。一体誰がわたしどもの袋に
銀を入れたのか分かりませぬ。執事は「御安心なさい
心配なさいはあなとあなたたちの神あなた

たちの父の神がその銀を袋に入れてくださったので、
あなただたちの銀はこのわたしが確かに受け取ったので
すからしと、令えシメオンを兄弟たちのもとへ連れて来た
執事は一同をヨセフの屋敷に入れ、水もよせて足を洗
わせろ、ばにも餌を與えた。彼らは贈り物を調べて
ズにヨセフが帰宅するのを待った。一諸に令執事をす
ことになつた。いと聞いたからである。ヨセフが帰宅する
一同は屋敷に持つて来た贈り物を差し出して、地にひれ
伏してヨセフを拝した。ヨセフは一同の安否を尋ねた後

言った。「お前に話していた會をとりた。父上は元気がまだ
生きているおられるか。」²⁶あなた様の僕である父は元気
でまだ生きております。と彼らは答へて言います。い
よセフも押した。²⁷ヨセフは同じ母から生まれた弟ベニ
ヤミンをじつと見つめて前には話していた。末の弟は「私が
と尋ねた。わたしの子よ、神のめぐみが、お前にあるように
と。」²⁸ヨセフは喜んで席を外した。弟懐かしさに胸が
熱く泣く涙が、ぼれそうになつた。だからである。ヨセフ
は奥の部屋に入ると泣いた。²⁹やがて顔を洗つて

出て来たこのミサフは平靜な聲で「父の命を救うために」
だが、とまいてつけた。命を救うためにミサフはミサフの兄弟は
兄弟たちの相伴するエジプト人にはエジプト人の名を
に用意させた。当時エジプト人はヘブライ人と共に命を救う
するとは、ごまかすことが出来た。それはエジプト人の
ことであつた。兄弟たちはいちばん上の見から末の弟まで
年齢順に座らされたのを驚いて互いに顔を見合させた。
そして料理がミサフの精からよんだのと、もう配られたが、ミサフは
の分はほかのたれの分より五倍も多かった。田はふたつと酒
を飲んだ。ミサフは「命を救うために」

第四十四章 銀の杯

ヨセフは執事に命じた。あの入達の杖を

運ぶ者がぎらぎら多くの食糧でいっぱいになり、

の銀をそれぞれが自分の袋の口のところに挿入しておけ

それからわたしの杯あの銀の杯をいちはん筆下

の者の袋の口に穀物の代金の銀と一諸に入れて

おきなさい。執事はヨセフが命じたとおりにした

次の朝辺りが明るくなると、一行は見送りを

愛する人にも許さずお金のことに何事もなく
また迷ひなく行くがよいうちにもセフは執事に命じた
「おれにあらぬ人遣はさし追ひつけたり彼らに
言ひなさいさういふにしてお可なりは世間はよくくまひに
報いよ。だがあの銀の杯はまたーの主人が飲たとき
杯の口のあたりに使はれたものではないか。よも
こゝろに取らぬが、さういふのだ。執事は彼らに
追いつくからとおもふに言つた。すると彼らは言つた

「いまだ人様どうしてそのようになんともおぼやかしやうの
てなが僕どもがそれなんことをするなどもとはとんでも
ないことですよ。笹の口で見つけた銀でさえわた
どもはカサシの地から持ち帰つてお返ししたては
あつせんかそのあたしどもがどうしてあなた
清き君のお屋敷から銀や金を盗んだりする
でしうか。僕どもの中のだれからでも杯が見る
ればその者は死罪にほがのあたしどもも皆御主人

様の奴隷にならうとす。すると執事は言った。今度
もお前たちの言うとおりにならうがだれであつても
杯が見つければその者はあたりの奴隷にならうけれ
ばならうといふほかの者には罪はない。彼らは急いで
自分の袋を地面に降ろしめめいで袋を開けた
執事が舟上の者からう念に入りに調子始めいちばん
最後に舟下の者になつたときペリヤミンの袋の中か
ら杯が見つかった。彼らは衣も引き裂きめめい
自分のろばに荷も積むと舟へ引き返した。

ユダと兄弟たちがヨセフの屋敷に入り行くときヨセフは
まだそこにいた。彼は彼の前で地にひれ伏した。

「お前たちのしたこの仕業は何事か、あたしのような

者はおらまを知らぬことを知らぬのが」とヨセフが言ひし

とユダが答えた。御主君に何と申し開きおまを知らぬ

今更けどう言えはあたしども身の証とまてらるるは

てきまじらう神が僕どもの罪もあげられたのでな

いのよはあたしども杯の見つかつた者と共に御主君の

奴隸にならうますしヨセフは言った「そんなことは全く
考えていないただ杯を見つけれられた者だけがわたしの
奴隸になればよいほかのお前たちは皆安心して又親の
もとに帰ればよい

ユダの嘆願

ユダはヨセフの前に進み出て言った「ああ御主人様何と
とぞお忍りにならうぞ僕の申し上げますことに耳を傾け
てくださいあなたはフアラオに等し^おかですらうやいます

海軍君は僕どもに向かつて・父や兄をさがしているのか。とお尋ね
ねにならう。だが、そのお尋ねは君に「軍」といふ父と
それに父の年寄のおおやう末の弟がおありです。その
兄は去つたやうに母のおおやうで残つてゐるは、そのお母は
です。から父は彼をかわらうておやうおやうと申して
お母は、あなた様は、そのお母は、
来い。自分の目で確かめることにしよう。僕どもにお命
に、おやうやう。わたしは、お母様におやうやう。
は

父親のひと書から讀むにちかひにほかにいふやうに
子が父親のひとを離れば父は死んでしまふといふ
と申さうだが、あなたさまは日その末の弟が「諸君
妻がければ再びわたしの顔を見ることが許さぬ」
と僕どもにおつちやいまして、あなたさまはあなた
さまの僕である父のところへ帰り、御主人のお言葉も
を伝へました。そして父がもう一度行つて我々の

食糧を買い置つて来ていふと申す、また折にも

コ行くとはいけませんもし末の弟が一緒なら行って
参ります末の弟が一緒でなければさういふ方が顔を
見るとはできませんでしたと答へました。すゝめあなた
さまの僕である父は曰お前たちも知つてゐるやうに
わたりの妻は二人の間に産んだといふからさうして
の一人はわたりのところから出ていったまうだまことかみ
裂れてしまふだと思ひうがそれ以来合つていなう。それな
のにお前たちはいふ子までもわたりに取上げよう

とせらるるもいかに不孝なるがハシ、此の身に起
りておしだらお前たちはこの自髪の父を苦めて
陰府に下らせむことになさのたと申す。今
おたしがこの子を諸に連れずにあなたさまの僕である
父のところへ帰れば父の魂はこの子の魂と堅く結ばれ、
いよからこの子がいなうことを知つて父は死んで
しまつてしまつて僕どもは自髪の父を悲嘆のうち
陰府に下らせむことになさのたと申す。実はこの僕が父に

いふものは金を保障してローマのものはあなたに
送って帰らなうようなことがあれば、わたしが父に對して
生涯の罪を真に続けまうと云つたのです。何とぞ
この子の代りにこの僕を御主人の奴隸としてここに残
す子はほがの兄弟たちと一緒に帰らせてください。
この子を一緒に連れずにどうしてわたしは父のものを
帰していざがてまうよう父に誓いながら苦悶を見
るにRusticoと

第四十五章 ヨセフを明かす

① ヨセフはそばで仕えている者の前で「もはや平靜を
装っていることができなくなろう、みんなここから出て行く
てくれ」と叫んだ。だれもそばにいななくなると、からりヨセフ
は兄弟たちに自分の身を明かした。② ヨセフは声をあげ
て泣いたので、エジプト人はそれを聞き、ファラオの宮廷に
も伝わった。③ ヨセフは兄弟たちと言った。「わたしは
ヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか。」
兄弟たちはヨセフの前で驚きのあまり答えることが

でもたのびた。いかにかめいかに好むか。兄弟たちが
そばへ行き、~~よく~~とヨセフはまた言った。「わたしはあなた
たちがエジプトへ来たのだ弟のヨセフです。今は
わたしをハムとスエツとを知らなかった。あなたも命だ。
すみやまはあません命を救うために神がわたしを
あなたたちより先にお遣わしになられたのです。ハムとスエツ
の間世界中で飢饉が襲うていますが、まだこれから五
間は耕すことと収穫もなごう。神がわたしを
あなたたちより先にお遣わしになられたのは、この国に

あなただたちの残りの者を与えあなたたちをすまき水
らえさせて大いなる救いに至らざるためです。わたし
をこころえ遣わしたのはあなたたちではなく神です
神がわたしをファラオの顧問宮廷全体の主エジプト全国
を治める者と立ててくださったのです。急いでエジプトの
もとへ帰って伝えてください。『神はわたしの神である』と
いす。神がわたしを全エジプトの主としてくださった。また
だめらわすにわたしをこころえ遣わしてください。わたし
ゴゼン^{Gosen}の地域に健んでください。それであなたも

護へてくださる。そして、きこいで、父上をここに連れて来て下さる。ヨセフは弟 בניヤミンの首を抱いて泣いた。ベンヤミンもヨセフの首を抱いて泣いた。ヨセフは兄弟たち皆にほづけし、彼らを抱いて泣いた。その後、兄弟たちはヨセフと逢り合った。ヨセフの兄弟たちがやって来たという知らせが、ファオの宮廷に伝わり、ファオも、来た人たちも喜んだ。ファオは息子に言った。「兄弟たち、どうするつもりか。」「言いたくない。」「家畜に荷を積んで、カナンの地に行き、父上と家族もここに連れて来て下さい。わたしはエジプトの国の

最良のものを与えようあなたたちはこの国の最上の
産物を食べよう。また、あなたの子供や妻たちも乗せる
。エジプトの国からあなたたちの子供や妻たちも乗せる
馬車も引いてゆき、父上もそれに乗せて来るがよい。
家財道具などには束縛を残さないように。エジプトの
国中で最良のものがあなたたちのものになる。S. 10. 5。
イスラエルの^息使徒はそのとおりにした。ヨセフはファオの
命令に従って彼らに馬車も馬も与え、また道中の食糧
も与えた。ヨセフは更に食糧にそれぞれ

晴れ着を貸えたが特にベニヤミンには銀三百枚と
晴れ着五枚を貸えた。父にもエジプトの最良のもの
を積んだろば十頭と穀物やビンそれに父の道中に
必要な食糧を積んだ雌ろば十頭を贈った。いよいよ
兄弟たちを送り出すとき、お念にあたってヨセフは
「途中で争いわなうでください」と言った。兄弟たち
はエジプトからカナン地方へ上りて行き、父ヤコブのもとに
帰る。直ちに報告した。ヨセフがまた生きて
います。しかもエジプト全国を治める者になりました。

又は気が遠くたつた彼らの言うことが信じられ
なかつたのである。彼らはヨセフが話したとおりのこと
も残らず父に語りヨセフが父を乗せろために道わ
した馬車を見せた。父ヤコブは元気を取り戻した。
イスラエルは言った、「よかつた息子ヨセフがまだ生きて
いたとは、あなた」は行こう死ぬ前にどうしてか命だ。

第四十一章 早ヤロブのエジプト下り

イスラエルは一家をきり捨てて旅立つた。そしてベエル・シエバに

着くと父イサアの神にいけにえをささげた。その夜

幻の中で神がイスラエルに「ヤロブヤロブ」と呼びかけた。彼が

「はい」と答えると、神は言われた。「わたしは神、あなた

の父の神である。エジプトへ下ることを許されはならぬ。

わたしはあなたをそこで大いなる国民とする。わたしは

あなたと共にエジプトへ下り、わたしがあなたを必ず連れ

戻す。

ヨセフがあなたのためまづだまを閉じていたるにてありけり」

ヤコブはベエラジムを出發し、イスラエルの地に入った。ちちは

ラウオの遣わした馬車に父ヤコブと子供や妻たちを

乗せた。ヤコブとその子孫は皆カナン地方で得た家畜や

財産をも携えてエジプトへ向つた。ヤコブは息子

や孫娘や孫娘など子孫を皆連れ来てエジプトへ行った。

エジプトへ行ったイスラエルの人をすなわちヤコブとその子孫の

名前には次のとおりである。ヤコブの長男にレウイ、ジハム

今ラベル (Lyon) カルミニイスキノ (Lyon) の HJH 2 アンブレ
ヤキンツルおよびカサノの女にやま (Lyon) の (Lyon) 2
ゲルマンケルトメラウ (Lyon) の (Lyon) のエルオサ
セラただしエルとオサノはカサノの土地で死んだ
の (Lyon) ハルメ (Lyon) の (Lyon) の (Lyon) の (Lyon) の
の (Lyon) の (Lyon) の (Lyon) の (Lyon) の (Lyon) の (Lyon) の
ヤコブとの間にまほんだ子 (Lyon) の (Lyon) の (Lyon) の
男女の總数は三十三名である (Lyon) の (Lyon) の (Lyon) の
(Lyon) の (Lyon) の (Lyon) の (Lyon) の (Lyon) の (Lyon) の

イミロウ(イミロ)および妹セラベニアの息子は(イミロ)イミロウ

イミロウはラビンの娘ニアに与えた。ミロウの子らである。ミロウが
アロウの間に産んだのは十名名である。アロウの妻

ミケラはミロウからマヤフ(ミヤミン)・ミセフにはヒンプトの国で
自己がなすもれた。それはオシの祭司ボグ・ステラの娘

アサトが彼との間に産んだ。マセとエフラムである。ミヤミン
ミロウから(イミロ)イミロウ・ミケラ・マヤフの息子は(イミロ)イミロウ

~~ミケラはミロウから(イミロ)イミロウ・ミケラ・マヤフの息子は(イミロ)イミロウ~~
ミケラはミロウから(イミロ)イミロウ・ミケラ・マヤフの息子は(イミロ)イミロウ

ミケラはミロウから(イミロ)イミロウの子らである。その總数は十四名である。

ビルハの妻からシムス、ナフタリの妻からヤラツル、グニ、イツエル、
シムス、これらはラズンが娘ラケルに与えたビルハの子らで
あつて、ビルハがヤコブとの間に産んだ者の總数は七名である
ヤコブの腰から出た者でヤコブと共にエジプトに行った者は
ヤコブの妻たちも除けば總数六十一名である、
~~彼等~~エジプト
で生まれたヨセフの子は二人である、従つて
エジプトへ行ったヤコブの家族は總数七十名であつた。

ゴシエンでの再会

ヨセフはヨセフをゴシエンに連れ来て来た。ためにユダを一足先にヨセフのところへ遣わした。そして一行はゴシエンの地に到着した。ヨセフは車を用意させると父イスラエルに会いにゴシエンへやって来た。ヨセフは父を見るやいなや父の首に抱きつき、その首にすがつた。まろばらく泣き続けた。イスラエルはヨセフに言った。わたしはもう死んでもよい。お前がまだ生きていてお前の顔を見る

見ることが出来たのだから。ヨセフは兄弟や父の
家族の者たちに言った。わたしはエジプトのところに
報者のため参上しヨカナン地方にいたわたしの兄弟
と父の家族の者たちがわたしのところに参りました。
この人たちは羊飼いで衆畜の群れを飼っていた。
その羊や牛をばいめずばいの財産を携えて
やそへ来た。と申します。で、それからエジプトがあなた
たちもお尋ねにならうて、『は事は何か』と言われたらう。

あなたがたの僕であるあたしどもは先祖代々幼い時
から今日まで家畜の群れを飼う者でございませ
と答えてください。そうすればあなたがたはロジエン
の地域に住むことができません。「羊飼いは
すべてエジプト人のことだからだ」のである。

第四十七章 ファラオとの会見

ヨセフはファラオのところへ行き、「わたしの父と兄弟
たちが羊や牛をばいじめずべての財産を携え
てカナン地方からやつて来て、今ゴゼンの地におり
ます」と報告した。②その時ヨセフは兄弟の中から
五人を送んでファラオの前に連れて行った。

ファラオはヨセフの兄弟たちに言った。「お前たちの
仕事は何が、兄弟たちがあなた達の僕である。」

あだーどもは先祖代々羊飼いでございませうと答へ
更に続けて「アオオに言ったくわたくしどもはこの國
に寄留させていたただきたいと思つてお尋ねした
カナン地方は飢饉がひどく僕たちの牧草がなくな
僕たちをエジプトの地に住らわせてください」アオは
「エジプトに回すと言つた、父上と兄弟たちがお前のところ
にやつて来たのだ。エジプトのことはお前に任せて
あつたから最もよい土地を父上と兄弟たちを

住まわせるがよし、エジプトの地に住まわせるのもよかろうとモー
一族の中に有能な者がいるならわたしの家畜の監督
とさせるがよい。それがらヨセフは父ヤコブを連れて
来て、ファラオの前に立たせた。ヤコブはファラオに祝福の
言葉を述べた。『ファラオがあなたは何歳におなご
ですか』とヤコブに語りかけると、『ヤコブはファラオに
答えた。』わたしの旅路の年月は百三十年です。
わたしの生涯の年月は短く、苦しみも長くわたしの

先祖たちの生涯や旅路の年月には及びません。ヤコブは
別れの程をこめてラオの前から退きました。ヨセフは
ラオが命じたように父と兄弟たちの住まいを定め
エジプトの国に所有地を与えた。そこはラメセス地方の
最もよい土地であった。ヨセフはまた父と兄弟たち
と父の家族の者すべてを養い、杖養子すべて者の数
に従って食糧を与えた。

ヨセフの政策

飢饉が狂り、激しく世界中に食糧がなくなつた
エジプトの国でも、カナシ地方でも、人は飢饉のために
苦しみあえいだ。ヨセフはエジプトの国とカナシ地方
の人々が穀物の代金として支拂つた銀をすべて集めて
それを faraoh の宮廷に納めた。エジプトの国にも
カナシ地方にも銀が尽き果てるとエジプト人は皆ヨセフ
のところへやこし来、て食糧をください、あなた
さまはあたしどもを見殺しにならざるおつもりですか

銀はなぐなうてしまふと云ふた。と云ふた。ヨセフは言つた。家畜と連れて来なさい。銀がなぐなうたのなら家畜と引き換えに与えよう。人家が家畜とヨセフのところに連れて来るとヨセフは馬や羊や牛の群れやろばと引き換えに食糧を与えた。ヨセフはいろいろその旨も終わり次の年になつると人をまたヨセフのところへ来て言つた。御主君には何も隠さずに申上げます。銀はすうかゝりなうた。家畜の群れも御主君の

ものとなつて御覧のよちに残つてゐるのはあたしども
の体と農地だけです。どうしてあなたさまの前で
あたしどもと農地が減んでしまつてしまふのか

食糧と引き換えにあなたとビロと土地を買ひ上げ
てください。あたしどもは農地とともにアラオの奴隷
にならうと種をおとすえください。そらすればあたし
どもはあたしどもは死ななすにまゐるハカトナ

農地も荒れ果てた。ミセフはエジプトの

す。その農地をファラオのために買上げた飢饉が
激しくなると、エジプト人は皆自分の^如農地を売ったから
である。土地はミツリしてファラオのものとなった。また民に
ついてはエジプト領の端から端までヨセフが彼らを奴隷に
した。ただ、祭司の農地だけは買上げなかつた。
祭司にはファラオからの給与があつて、ファラオが立てる給与
で生活してゐたので、農地を売らなかつたからである。
ヨセフは民に言つた。よいか、お前たちは今日、農地と共に

フラオに買い取られたのだ。さあ、ここに種があるから畑に
蒔きなさい。収穫の時には五分の一をフラオに納め
五分の日はお前たちのものとしよう。それを畑に
蒔く種にしたりお前たちや家族の者の食糧とし
子供達の食糧としよう。彼は言った。あなたさま
はあたくしどももの命の恩人です。御主君のご好意に
ようてあたくしどもはフラオの奴隷にさせていただきます。
ヨセフは、このように収穫の五分の一をフラオに納めることを

エジプトの定めていたそれは今日まで続いてくるだけ
祭司の農地だけはエネオのものにならなかつた

ヤコブの遺言

イスラエルはエジプトの国ゴゼン¹の地域に住みそこに土地
を得て子を産み大いに教を増した ヤコブはエジプト

の国で七十七歳さまきたヤコブの生涯は百四十七歳であった
イスラエルは死ぬ日が近づいたとき息子ヨセフを呼び寄せ
て言った「もしお前がわたしの願いを聞いてくれるなら

おが時の手手をもわたしの腿の間に入れあたましたちのためは
意にまよとまよとをもつて実行すると誓うてほしうどうか
わたしのまよのまよには葬らなうてくれ。わたしが先祖た
と共に眠りについたならあたまをエジプトから運び出
て先祖たちの墓に葬つてほしい。ヨセフが必ずおつちや
とおりになうとあまはと答えるとまよはうては誓う
てくれと言った。ヨセフは誓った。イスラエルは寝台の
枕もつて感謝を表した。

第四十八章 ヤコブヨセフの子らも祝福する

これらのことの後でヨセフに「お父上が御病氣です」との知らせが入ったのでヨセフは二人の息子マナセとエフライムを連れて行った。ある人がヤコブに「御子息のヨセフがまがただいまお見えになりました」と知らせるとイスラエルは力を奪い起して寝台の上に座った。ヤコブはヨセフに「言った全能の神がカナン地方のルズデわたしに現れてわたしを祝福してくださったとき、こう言われた

「あなたの子孫を繁栄栄させ数を増しあなたも
諸国民の群としやうこの土地をあなたに続く子孫に
永遠の所有地として與えやう」今わたしが

エジプトのおおのころに來るエジプトの國でま
れたお前の二人の息子もあなたの子供にしたい

エフラムとマナセはエジプトの國であなたの子
とだが、その後にはまゐる者はお前の名でよぶ

しか、彼らの嗣業の土地は見たちの名で呼ばれるであらう

わたしはバビロンから帰る途中ラケルに死なれてしまった
あれはカナン地方でエフラタまで行くにはまだがざう
の道の方があらず途中のことだったわたしはラケルを
エフラタつまり今のベツレヘムに向う道のほとり（2）に葬った

イスラエルはヨセフの息子たちを見ながら「これは誰か
と尋ねた。ヨセフが父に「神が今ここで援けてくださった
あなた（3）の息子です」と答へると父は「ここへ連れて
来なさい彼らを祝福しよう」と言つた。イスラエルの目は

老齒のたよりがすんでよく見えなかつたので「ヨセフが
二人の首をわき入るやうに近づきうせよ」と父は彼ら
に口づけをうけて抱き締められた。「イスラエルは「ヨセフ」
と言つた「お前の顔がえ見える」といふが「Joseph」
とは思わなかつたのだ。なんと神はお前の子供たち
をも見させてくださった。」「ヨセフは彼らをも父の膝
から離し地にひれ伏して拝した。「ヨセフは二人の
息子のうちエフライムをも自分の右手で「イスラエルの右」

に向かおせし人も近寄くらせた。イスタエルは右手を伸ばして弟であるエフライムの頭の上に置き左手もマナセの頭の上に置いた。つまり子ナセが長男であるのに彼は両手も交差して置いたのである。そしてヨセフを祝福して言った。わたしの先祖アブラハムとイサクがその御前に歩んだ神よ。わたしの生涯を今日まで送られた牧者さま神よ。わたしをあらゆる苦しみから贖われた。御使さまどうか私の子供たちの上に祝福をお送ください。

どうがわたしの名とわたしのアブラハムイサカの名が彼らに
よろこびて見ええられようようにどうか彼らがこの地上に
数多く増え続けようように。ヨセフは父が右手を

エフライムの顔の上に置いていたのを見て不満に思いつい

父の手を取ってエフライムの顔からマナセの顔へ移そうとした

ヨセフは父に言った「父上そういうではありませぬこれが

長男です」が、右手をこの顔の上に置いてくれたら

どうか父はそれを拒んで言った「やめなさい」

わたーの子よ、わたーには、
なう、大きくなご、あろう、
なう、大きくなご、あろう、
なう、その子孫は、
なう、その子孫は、

その日、父は彼らを祝福して、
イスラエルは人を祝福して、
あなたもエフライムとマナセの、

彼はこのように、エフライムを、

イスラエルはヨセフに、

だが神がお前たちと共にこころをくだされまこととお前
たちも先祖の団に導き歸らせてくだされ

わたしはお前に兄弟たちようもまぐわたし
剣と弓をもつてアモラ人の手から取った一つの分け
前(ニギハヤヒ)をばえろこととす

第四十九章 ヤコブの祝福

ヤコブは息子たちを呼び寄せてと言った、集らなさい、
あたしは後の日にお前たちと共に起ころうことを請うて
おきたい。ヤコブの息子たちよ、集まうて耳を傾けよ、
お前たちの父イスタエルに身を傾けよ。

ルベンよ、お前はわたしの長子、わたしの勢い、命の力の
初穂、気位が高く、力も強い、お前は水のように奔放で、
長子の誉れを失う、お前は父の寝台に上った。

あのとき、わたしの寝台に上り、それを汚した。

シメオンとレビは似た兄弟彼らの剣は暴力の道具
わたしの魂よ彼らの謀議に加わらぬ

わたしの心よ彼らの仲間にならぬ彼らは怒り

のままに人を殺し思うがままに雄牛の足の筋を切った

呪われよ彼らの怒りは激しく壇の基礎はゆえに

わたしは彼らをやエブラの間に分けシラエの間に散らす

エブラよあなたは兄弟にたたえられるあなたの手は

敵の首を押さえ父の子たちはあなたを伏し拝む

ユダは獅子の子わたりの子よあなたは獲物を取って
よって来る彼は雄獅子のようになりすくまう雄獅子のよう
身を伏せる誰が乳を起すことができたようか

王笏はユダから離れず 統治の杖は足の間から離れない
ついにシロが来て 諸国の民は彼に従う

彼はろばをぶどうの木につなぎ 彼は自分の衣をぶどう酒で
着物をぶどうの汁で洗う

彼の目はぶどう酒によって輝き 歯は乳によって白くなる

セブルンは海辺に住む。そこは舟の出入りする港となり
その境はインドンに及ぶ

イサカルは骨太のろば。二つの葦袋の間に身を伏せし

彼はその土地が快よく好ましい休息の場となつた

彼はそこで背をかがめて荷を担い、苦役の奴隷に身を落し

ズンは自分の民を裁くイスラエルのほかの部族のように

ダンは道端の蛇小道のほとり、に潜む、蝮馬のかがとを

かむと、乗り手はおおむけに落ちる

まよわたしはあなただの救いを待ち望む

ガドは略奪者に襲われろしかし彼は彼らのかかどを襲う
アミエルには豊かな食物があり主の食卓に美味を供えろ
ナフタリは解き放たれた雌鹿美し子鹿を産む

ヨセフは実を結ぶ若木泉のほとりの実を結ぶ若木

その枝は石垣を越えて伸びろ

弓を射る者たちは彼に敵意を抱き矢を放ち追いつき
ろしかし彼の弓はたさむことなく彼の手は素早く

動く

まじりの勇者の御手によりそれによりアスラエルの石と
なぐ牧者とたふた

どうかあなたへの父の神があなたを助け全能者に
よんであなたは祝福がを受けようよりに上げ天の
祝福下は横たある淵の祝福乳房と母の胎の祝福を
もて あなたへの父の祝福は永遠の山の祝福にまきり
永えの丘の賜物にまきりこれらの祝福がヨセフの上にある
兄弟たちから送られた者の頭にあるように

ベニヤミンはかみ裂く狼 朝には獲物に食らいつき
夕には奪つたものをも分け合ふ

これらはすべてイスラエルの部族でその数は十二である
これは彼らの父が誇り祝福した言葉である父は
彼らをおのおのにはあきわし、祝福をも子祝福した
のである

ヤコブの死

ヤコブは息子たちに命じた間もなくわたしは先祖の
列に加えられる わたしをト人エフロンの畑にある

洞穴に先祖たちと共に葬つてほしい それはカナン地方

の列に加えられた
エンボシから眼に取った墓地として所有するようになされた
そこにはアゼラムと妻サラが葬られていたそこにイサク
と妻リベカも葬られていたそこにわたしもレアを

葬じた
あの畑とあそこにある洞穴はトト人たちの
から買い取ったものだ
ヤコブは息子たちは命ど
終えらるゝ寝台の上に足を揃え息を引き取り先祖
の列に加えられた

第五十章 ヤコブの埋葬

① ヨセフは父の顔に伏して泣き口づけをした

② ヨセフは自分の侍医たちに父のなまきがらに薬を塗り防腐処置をすらしめるように命じたので医者は

イスラエルにその処置をさせた③ そのため四十日を

費したこの処置をすらしめるにはそれだけの日数が

必要であったエジプト人は七十日の間喪に服した

④ 喪が明けるとヨセフはファオの宮廷に願い出た

「せひともアラオにお取り次ぎください。実は父が
わたりに誓をさせて「わたしは同じなく死ぬその
ときはカナンの土地に用意してある墓にわたし
を葬らせてくれ」と申しました。ですからどうか

父を葬りに行かせてください。わたしはまた帰って
参ります。アラオは答えた。「父上が誓をさせたとおり
に葬りに行って来るがよい。」ヨセフは父を葬りに
上つて行った。ヨセフと共に上つて行ったのはアラオの宮廷の

元老である重臣たちすばアトエジプトの国の長老たち
すばア それにヨセフの家族全員と彼の兄弟たち
および父の一族であつたただ幼時と羊の群はゴゼン
地域に残つた 戦車も騎兵も共に上つて行つた
のでそれはまことに盛大な行列となつた

一行はヨルダン川の東側にあるゴレン・アタドに着き
そこで非常に莊嚴な葬儀を行なつた その
土地に住んでいるカナン人たちはゴレン・アタドで行われた

追悼の儀を見てもあれはエジプト流の盛大追悼の
儀式だと言った。それゆえその場所の名はアベル。

ミツラーム(エジプト流の追悼式)と呼ばれようになった。
それはヨビダン舞の東側にある。それからヤコブの

息子たちは父に命じられたとおりに行った。すなわち
ヤコブの息子たちは父のなすがらをカナンの土地に運び

マツベラの畑の洞穴に葬った。それはアブラハムがマムシの
前にあつた畑ととも(トト)人エフロンから買い取り基地と

して所有するようになつたものであつた。ヨセフは
父を葬つた後兄弟たちをほぐれめ父を葬るために
上つて来たはずでての人まゝ共にエジプトに帰つた
叔一の再確認

ヨセフの兄弟たちは父が死んでしまつたのでヨセフ
がことによると自分たちをまだ恨み昔ヨセフ
に「だすべての悪」に仕返す事をすらすらではなつかし
かつた。そこで人を介してヨセフに言つた

お父さんはつくならる前にくらう言つていました
お前たちはヨセフはこう言いなさい確かに兄
たちはお前には悪いことをしたけど、兄たちの
怒りと罪を赦してやしてほしく、お願いですどうか
あなたの父の神に仕える僕たちの必死を赦してください
さういふ事を聞いてヨセフは涙を流した
やがて兄たち自身もやって来てヨセフの前にはひれ伏
して「お父様とお母様、私どもはあなたの僕です」と言おうと

「恐いれることはありませんわたくしが神に代わることか
てきまう—ようか。あなたがたはわたくしに代わって
らみま—だが神はそれに善^に悪^を多^くの民の命を
救うために今目のまうにしてくださったのです

どうか恐れなごいでくださうこのわたくしがあなたたちと
あなたたちの子供を養いま—まう」「ヨセフはこゝろを
兄たちを慰め優しく語りかけた

ヨセフの死

ヨセフは父の家族と共にエジプトにはむす百十歳まで
生き、エライム三代の子孫を見ることが出来た。

マナセの息子マキルの子供達も生まれとヨセフの膝に
抱かれた。ヨセフは兄弟たちと言った、「わたしは
間もなく死にます。が、神は必ずあなたたちを

顧みてくださり、この国からアブラハム、イサウ、ヤコブに
誓われた土地に導き上ってくださいませ。」

それからヨセフはイスラエルの息子たちにこう言つて誓
あせた

神は必ずあなたたちを顧みてください
そのときにはわたしの骨をここから携えてよそ
ください

ヨセフはこうして百十歳で死んだ人々はエジプトで
彼のなまきながらに薬を塗り防腐処置をうけて
ひつぎに納めた